

平成25年度 年度計画に係る評価規準・基準

★…重点項目、◆…数値目標を有する項目

No.	中期計画	平成25年度	
		年度計画	評価規準
I 実践力のある人材の育成(教育の質の向上に関する目標)を達成するために取るべき措置			
1 教育に関する取組			
1-1 教育内容の質的向上・質的転換			
(2)組織的な教育の実施と学修時間の実質的な増加・確保			
10	<p>★ [学修時間の実質的な増加・確保とその的確な把握]</p> <p>学生の主体的な学修を促す教育内容と方法の工夫、並びに学修環境の改善、学生の学修時間の実態把握などにより、学生の学修時間の実質的な増加・確保を目指す。</p>	<p>■ 学生の学修時間に関する実態把握調査を実施・検証し、学修環境の改善に向けた方策を検討する。</p>	<p>○学生の学修時間に関する実態把握調査の実施・検証</p> <p>○総合教育センターにおいて学修環境の改善に向けた方策の検討</p>
4:規準として掲げた取組をすべて実施するとともに、計画を更に推進する取組に着手した。			
3:規準として掲げた取組をすべて実施し、調査結果の検証と改善に向けた方策の検討を行った。			
2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。			
1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。			
(3)全学的な教学マネジメントの確立			
14-1	<p>★ [副専攻プログラムの導入と他学部履修等の促進]</p> <p>広い視野と専門性を兼ね備えた人材の育成、高い到達目標への挑戦等、多様化する学生のニーズに対して多様な学びの機会を提供するため、学部学科の特色づくりの一環として、主専攻分野の内外で体系的に学ぶことができる副専攻プログラムを一部の学部学科において導入し、成績優秀者や他学部生の発展的学習が可能になるカリキュラムの提供を検討する。</p>	<p>■ 全学的な検討組織である教育改革推進委員会を設置し、副専攻プログラムの導入や他学部履修等を促進するための方策を検討する。</p>	<p>○全学的な検討組織として教育改革推進委員会の設置</p> <p>○副専攻プログラムの導入や他学部履修等を促進するための方策の検討</p>
4:規準として掲げた取組をすべて実施するとともに、計画を更に推進する新たな取組に着手した。			
3:規準として掲げた取組をすべて実施し、多様な学びの機会の提供に資する方策の立案に努めた。			
2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。			
1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。			
14-2	<p>★ また、他学部履修等を促進するための効果的な仕組みを導入する。</p>		
1-2 意欲ある学生の確保			
21	<p>41 [留学生の確保と教育・支援]</p> <p>★ 求める留学生像を明確にし、留学生受入れ計画を策定するとともに、海外向け広報活動の充実、並びに国際交流協定締結校や本学への留学経験者等への継続的な情報発信を行うことにより、より多くの優秀な留学生を確保し、適切な教育及び支援を行う。</p> <p>◆ [数値目標:留学生受入数…120人(平成30年度)]</p>	<p>■ 中期計画期間中の事業方針と国際交流推進行動計画(項目(38))の中で明示される留学生の受入方針に基づき、より多くの優秀な留学生の確保に努める。</p> <p>■ 留学生の派遣・受入の支援体制を充実するため、総合教育センターに留学生支援担当を配置する。</p> <p>■ 大学ホームページに英語・中国語・韓国語での情報を充実するとともに、英語版大学案内により海外に向けた広報活動の充実を図る。</p> <p>[数値目標:留学生受入数…70人]</p>	<p>○留学生受入数…70人</p>
4:数値目標において、目標数値を達成した。			
3:数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・留学生受入数…63~69人			
2:数値目標の達成率が6割以上、9割未満であった。 ・留学生受入数…42~62人			
1:数値目標の達成率が、6割未満であった。			
22	<p>◆ [定員充足率の改善]</p> <p>定員充足率に課題を有する研究科の専攻にあっては、教育内容の充実、進学者の増加策、積極的な入試広報などに総合的に取り組み、定員充足率の改善を目指す。併せて、取組の成果を検証し、改善策を検討する。</p> <p>[数値目標:研究科全体の定員充足率…100%(各年度)]</p>	<p>■ 進学者の増加に向け、積極的な広報活動や企業・行政機関の訪問を行う。</p> <p>[数値目標:研究科全体の定員充足率…100%]</p>	<p>○研究科全体の定員充足率…100%</p>
4:数値目標において、目標数値を達成した。			
3:数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・研究科全体の定員充足率…90~99%			
2:数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値であった。 ・研究科全体の定員充足率…60~89%			
1:数値目標の達成率が6割未満であった。			

No.	中期計画	平成25年度		
		年度計画	評価規準	評価基準
2 学士課程教育に関する取組				
2-1 卒業時に保証する能力水準の具体化とその確保				
23	<p>★ [卒業時に保証する能力水準の具体化とその確保] 学士課程教育の学修成果として、基礎学力や専門知識とともに、現代社会や次代を生き抜く基礎となるコミュニケーション力やプレゼンテーション力、問題発見・解決力、論理的思考力、異文化理解・活用力などを重視し、卒業時に専門分野にかかわらず全ての学生に保証する(修得させる)力を「県立広島大学スタンダード」<仮称>と定義し、その具体化と確保(修得)を図る。(関係項目24~30, 33, 34)</p>	<p>■ コミュニケーション力やプレゼンテーション力、問題発見・解決力、論理的思考力、異文化理解・活用力などを重視し、卒業時に専門分野にかかわらず全ての学生に保証する(修得させる)力について、その具体化を検討する。</p>	<p>○すべての学生の修得を目指す全学共通教育の新プログラムの編成に関する総合教育センター内での検討 ○総合教育センターの検討結果に基づく、教育改革推進委員会における全学的検討</p>	<p>4:規準として掲げた取組をすべて実施するとともに、計画を更に推進する取組に着手した。 3:規準として掲げた取組をすべて実施し、卒業時に保証する能力水準の具体化に努めた。 2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。 1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
2-2 全学共通教育の充実				
24	<p>★ [英語力の全学的な養成] グローバル化への対応の基礎として、英語力に応じた習熟度別クラス編成と少人数教育、eラーニングシステムの活用促進、TOEICスコアなどの単位認定への活用などを通して、英語力の全学的な向上に努める。 [数値目標:2年次修了時までTOEIC450点以上の到達者の割合…90%以上(平成30年度)]</p>	<p>■ 英語力の全学的な向上を図るため、TOEICの受験促進の仕組みづくりと予算の確保に努める。 [数値目標:TOEIC受験者のうち450点以上の到達者の割合…30%以上]</p>	<p>○TOEIC受験者のうち450点以上の到達者の割合…30%以上</p>	<p>4:数値目標において、目標数値を達成した。 3:数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・TOEIC450点以上の到達者の割合…27~29% 2:数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値である。 ・TOEIC450点以上の到達者の割合…18~26% 1:数値目標について、目標の6割未満の数値である。</p>
26	<p>★ [国家資格取得のための実習や地域活動を通じた学生の社会的自立の支援] ◆ 国家資格取得のための実習や地域社会における学生の実践活動(ボランティア、地域課題解決に係る調査や提案等)の単位化などにより、地域活動に必要なとされる資質や素養、主体性や責任感などの育成を支援する。 [数値目標:学外実習・学外実践等科目履修率…95%(平成30年度)](各学部・学科)</p>	<p>■ 国家資格取得のための実習施設の拡充に努め、実習内容の充実を図る。 ■ 学生の積極的な地域貢献・連携活動を促し、支援する仕組みについて検討する。 [数値目標:学外実習・学外実践等科目履修率100%(健康科学科・保健福祉学部)] [数値目標:学外実習・学外実践等科目履修率…30%(国際文化学科)] [数値目標:学外実習・学外実践等科目履修率…30%(経営情報学部)] [数値目標:学外実習・学外実践等科目履修率…40%(生命環境学部)]</p>	<p>○卒業時における学生の学外実習・学外実践等科目履修率 ・国際文化学科…30% ・健康科学科…100% ・経営学科…30% ・経営情報学科…30% ・生命科学科…40% ・環境科学科…40% ・保健福祉学部5学科…100%</p>	<p>4:すべての学部・学科において、数値目標を達成した。 3:すべての学部・学科において、目標の9割以上の数値を達成した。 2:一部の学部・学科において、目標の6割以上、9割未満の数値がある。 1:一部の学部・学科において、目標の6割未満の数値である。</p>
2-3 専門教育の充実				
29	<p>◆ [一貫した学士課程教育の推進] 各学部は、総合教育センターとの連携の下、策定されたカリキュラム・ポリシーに基づき、初年次から卒業年次にかけての効果的な教育を実施する。 [数値目標:標準修業年限内の卒業率…90%(各年度)] [数値目標:標準修業年限の1.5倍以内の卒業率…95%(同上)] [数値目標:卒業時の総合的満足度…85%(同上)] (何れも各学部・学科) [数値目標:管理栄養士国家試験の合格率…95%(各年度)] [数値目標:看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の各国家試験の合格率…100%(各年度)] [数値目標:社会福祉士国家試験の合格率…90%(各年度)] [数値目標:精神保健福祉士国家試験の合格率…95%(各年度)]</p>	<p>■ 各学部はカリキュラム・ポリシーに基づき、総合教育センターとの連携の下、初年次から卒業年次にかけての効果的な教育を実施する。 [数値目標:標準修業年限内の卒業率…90%] [数値目標:標準修業年限の1.5倍以内の卒業率…95%] [数値目標:卒業時の総合的満足度…85%] (何れも各学部・学科) [数値目標:管理栄養士国家試験の合格率…95%] [数値目標:看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の各国家試験の合格率…100%] [数値目標:社会福祉士国家試験の合格率…90%] [数値目標:精神保健福祉士国家試験の合格率…95%]</p>	<p>○標準修業年限内の卒業率…90% ○標準修業年限の1.5倍以内の卒業率…95% ○卒業時の総合的満足度…85%(何れも各学部・学科) ○管理栄養士国家試験の合格率…95% ○看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の各国家試験の合格率…100% ○社会福祉士国家試験の合格率…90% ○精神保健福祉士国家試験の合格率…95%</p>	<p>4:すべての数値目標において、目標数値を達成した。 3:すべての数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・標準修業年限内の卒業率…81~89% ・標準修業年限の1.5倍以内の卒業率85.5~94% ・卒業時の総合的満足度…76.5~84% ・管理栄養士国家試験の合格率…85.5~94% ・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の各国家試験の合格率…90~99% ・社会福祉士国家試験の合格率…81~89% ・精神保健福祉士国家試験の合格率…85.5~94% 2:数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値がある。 ・標準修業年限内の卒業率…54~80% ・標準修業年限の1.5倍以内の卒業率…57~85.4% ・卒業時の総合的満足度…51~76.4% ・管理栄養士国家試験の合格率…57~85.4% ・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の各国家試験の合格率…60~89% ・社会福祉士国家試験の合格率…54~80% ・精神保健福祉士国家試験の合格率…57~85% 1:数値目標において、目標の6割未満の数値がある。</p>

No.	中期計画	平成25年度		
		年度計画	評価規準	評価基準
30	<p>★ [社会的評価を有する審査・試験の積極的な活用による学修成果の検証]</p> <p>◆ [社会的評価を有する外国語運用能力に係る判定試験(TOEIC, TOEFL, 中国語検定, 韓国語検定等)のほか, 情報処理・活用力に係る技術者試験, バイオ技術や環境技術に係る試験等を積極的に活用して, 学修成果の検証に資する。]</p> <p>[数値目標: 卒業時まで(TOEIC700点以上到達者の割合…30%以上(平成30年度))(国際文化学科)]</p> <p>[数値目標: 卒業時まで(中国語検定2級レベル以上到達者の割合…10%以上(平成30年度))(同上)]</p> <p>[数値目標: 卒業時の情報処理技術者試験合格率※…60%(各年度))(経営情報学科)]</p> <p>[数値目標: 中級バイオ技術者試験合格率※…80%(各年度))(生命環境学部)]</p> <p>[数値目標: 上級バイオ技術者試験合格率※…60%(各年度))(同上)]</p> <p>※学生の主体的な選択に基づく受験者の合格率。</p>	<p>■ 各種資格・検定試験に関する情報を提供し, 資格・検定試験の受験率及び合格率向上のための支援を行う。</p> <p>■ 学科の人材育成目標に関連する認定資格(住環境福祉コーディネーターなど)の積極的取得を支援するための講座を開講する。</p> <p>[数値目標: 卒業時まで(TOEIC700点以上到達者の割合…10%以上)(国際文化学科)]</p> <p>[数値目標: 卒業時の情報処理技術者試験合格率…60%](経営情報学科)</p> <p>[数値目標: 中級バイオ技術者試験合格率…80%](生命環境学部)</p> <p>[数値目標: 上級バイオ技術者試験合格率…60%](同上)</p>	<p>○卒業時まで(TOEIC700点以上到達者の割合…10%以上(国際文化学科))</p> <p>○卒業時の情報処理技術者試験合格率…60%(経営情報学科)</p> <p>○中級バイオ技術者試験合格率…80%(生命環境学部)</p> <p>○上級バイオ技術者試験合格率…60%</p>	<p>4: すべての数値目標において, 目標数値を達成した。</p> <p>3: すべての数値目標において, 目標の9割以上の数値を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業時まで(TOEIC700点以上到達者の割合…9%(国際文化学科)) 卒業時の情報処理技術者試験合格率…54~59%(経営情報学科) 中級バイオ技術者試験合格率…72~79%(生命環境学部) 上級バイオ技術者試験合格率…54~59%(同上) <p>2: 数値目標において, 目標の6割以上, 9割未満の数値がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業時まで(TOEIC700点以上到達者の割合…6~8%(国際文化学科)) 卒業時の情報処理技術者試験合格率…36~53%(経営情報学科) 中級バイオ技術者試験合格率…48~71%(生命環境学部) 上級バイオ技術者試験合格率…36~53%(同上) <p>1: 数値目標において, 目標の6割未満の数値がある。</p>
3 大学院教育等に関する取組				
3-1 大学院教育に係る教育内容の充実				
35	<p>◆ [優れた研究者と高度な専門知識や技術を有する職業人の養成]</p> <p>各専攻は, 策定されたカリキュラム・ポリシーに基づき効果的な教育を行い, 広い視野とマネジメント能力, 応用実践能力を兼ね備えた, 高度な専門知識や技術を有する職業人や優れた研究者を養成するとともに, 社会人に対するより高度な学修機会を提供する。</p> <p>[数値目標: 標準修業年限内の修了率…90%(各年度)]</p> <p>[数値目標: 標準修業年限の1.5倍以内の修了率…95%(同上)]</p> <p>[数値目標: 修了時の総合的満足度…85%(同上)]</p>	<p>■ 研究科の各専攻においてカリキュラム・ポリシーに基づいた教育・研究を行う。</p> <p>■ マネジメント能力, 実践能力を身につけた人材養成のための教育プログラムを検討する。</p> <p>[数値目標: 標準修業年限内の修了率…90%]</p> <p>[数値目標: 標準修業年限の1.5倍以内の修了率…95%]</p> <p>[数値目標: 修了時の総合的満足度…85%]</p>	<p>○標準修業年限内の修了率…90%</p> <p>○標準修業年限の1.5倍以内の修了率…95%</p> <p>○修了時の総合的満足度…85%</p>	<p>4: すべての数値目標において, 目標数値を達成した。</p> <p>3: すべての数値目標において, 目標の9割以上の数値を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の修了率…81~89% 標準修業年限の1.5倍以内の修了率…85.5~94% 修了時の総合的満足度…76.5~84% <p>2: 数値目標において, 目標の6割以上, 9割未満の数値がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の修了率…54~80% 標準修業年限の1.5倍以内の修了率…57~85.4% 修了時の総合的満足度…51~76.4% <p>1: 数値目標において, 目標の6割未満の数値がある。</p>
3-2 助産学専攻科に係る教育内容の充実				
38	<p>◆ [実践力のある助産師の養成]</p> <p>助産に必要な高度な専門知識と実践力を有し, 地域社会の母子保健の発展に貢献できる助産師を着実に養成するため, 実習施設の拡充等, 体制の整備に努める。</p> <p>[数値目標: 助産師国家試験の合格率…100%(各年度)]</p>	<p>■ 学生による授業評価を継続して実施し, 助産学専攻科教育プログラムの改善に役立てる。</p> <p>■ 助産師を着実に養成するため, 実習施設の獲得を進めるとともに, 実習施設との連携の強化に努める。</p> <p>[数値目標: 助産師国家試験の合格率…100%]</p>	<p>○助産師国家試験の合格率…100%</p>	<p>4: 数値目標を達成した。</p> <p>3: 数値目標において, 目標の9割以上の合格率を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 助産師国家試験の合格率…90~99% <p>2: 数値目標において, 目標の6割以上, 9割未満の合格率であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 助産師国家試験の合格率…60~89% <p>1: 数値目標において, 目標の6割未満の合格率であった。</p>

No.	中期計画	平成25年度		
		年度計画	評価規準 評価基準	
4 国際化に関する取組				
40	<p>[海外留学等の促進] ★ 学生が選択しやすい海外留学(短期を含む。)や海外インターンシップ等のプログラムを開発し、外国語教育の充実、単位認定の拡大、国際交流協定締結校の拡充、奨学金制度の拡充、危機管理体制の充実等による環境整備を行い、より多くの学生に海外体験の機会を提供する。 〔数値目標:海外留学派遣学生数…130人(平成30年度)〕 〔数値目標:国際交流協定締結校数…24校(平成30年度)〕</p>	<p>■ 国際化の推進にあたり、学生に対する広報・意識啓発の推進策として、留学のための1年次からのプログラム指導、きめ細やかな相談体制の整備を進める。 ■ 海外大学で取得した単位の認定制度の充実及び海外インターンシップの推進を含めたカリキュラムの検討、並びに国際交流協定締結校との単位互換制度の整備を検討する。 ■ 留学による学修成果の検証を行い、更なる国際化の推進に活用する。 ■ 学生の留学環境を充実させるため、留学生への経済的支援制度及び海外危機管理対策を充実させ、各学部における国際交流推進事業(学部提案事業)の拡充を図るとともに、協定締結実績のない国・地域における国際交流協定の締結を推進する。 〔数値目標:海外留学派遣学生数…70人〕 〔数値目標:国際交流協定締結校数…19校〕</p>	<p>○海外留学派遣学生数…70人 ○国際交流協定締結校数…19校</p>	<p>4:2つの数値目標において、目標数値を達成した。 3:2つの数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・海外留学派遣学生数…63～69人 ・国際交流協定締結校数…18校 2:数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値がある。 ・海外留学派遣学生数…42～62人 ・国際交流協定締結校数…12～17校 1:数値目標において、目標の6割未満の数値がある。</p>
41 27	<p>[優秀な留学生の受け入れ拡大] ★ 留学生向け履修科目の拡充、受入プログラムの開発、奨学金制度の拡充等により外国人留学生の受入環境を整備し、主に国際交流協定締結校からの、優秀な学生の受け入れを拡大する。 〔数値目標:留学生受入数…120人(平成30年度)〕<再掲></p>	<p>■ 受入留学生を対象とする相談窓口を設置するとともに、家賃差額助成制度の新設及び奨学金支給制度の検証、制度の見直しを行う。 〔数値目標:留学生受入数…70人〕</p>	<p>○留学生受入数…70人</p>	<p>4:数値目標において、目標数値を達成した。 3:数値目標において、目標の9割以上の人数を達成した。 ・留学生受入数…63～69人 2:数値目標において、目標の6割以上、9割未満の人数であった。 ・留学生受入数…42～62人 1:数値目標において、目標の6割未満の人数であった。</p>
5 学生への支援に関する取組				
44-1	<p>[学修支援] ◆ 入学前教育や入学後の補習等により、大学教育への円滑な移行を支援するほか、チューター等が行う学修支援、講義資料の添付機能や参考書の検索機能等を備えたシラバスシステムの運用、学生が自らの学修成果の進捗状況を点検できるキャリア・ポートフォリオの活用、ICT教材やeラーニング教材の整備など、学生の学修意欲を引き出す支援を行う。 〔数値目標:学生1人当たり年間図書貸出冊数…15冊以上(各年度)〕(学術情報C) 〔数値目標:退学者の割合(入学から標準修業年限内)…3%以下(各年度)〕 〔数値目標:退学者の割合(入学から1年以内)…1%以下(各年度)〕 (何れも各学部・研究科)</p>	<p>■ 学生の学習意欲を引き出すため、学生が自らの学修成果の進捗状況を点検できるキャリア・ポートフォリオの活用を支援する。 ■ 経営情報学部の推薦入試合格者に対し、高校基礎数学の入学前教育を実施する。 ■ 経営情報システムのeラーニング教材、ウェブアンケートシステムを学生の学修支援、教職員の学生指導等に幅広く活用する。 ■ フレッシュマンセミナーにおける全学共通内容について検討する。 ■ 平成24年度より稼働している新シラバスシステムの一層の活用を図るとともに、eラーニングシステムとの連動の可能性について検討を行う。 ■ 教室外学修の拡大に資するレポート課題や、シラバスに掲載する参考書・推薦図書の数を増やす取組など、図書等の貸出冊数の拡大につながる取組を全学的に推進する。 〔数値目標:学生1人当たり年間図書貸出冊数…15冊以上〕(学術情報C) 〔数値目標:退学者の割合(入学から標準修業年限内)…3%以下〕 〔数値目標:退学者の割合(入学から1年以内)…1%以下〕 (何れも各学部・研究科)</p>	<p>○学生1人当たり年間図書貸出冊数…15冊以上 ○退学者の割合(入学から標準修業年限内)…3%以下 ○退学者の割合(入学から1年以内)…1%以下</p>	<p>4:すべての数値目標について、目標数値を達成した。 3:すべての数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・年間図書貸出冊数…13.5～14冊 ・退学者の割合(入学から標準修業年限内)…3.1～3.3% ・退学者の割合(入学から1年以内)…1.1% 2:数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値がある。 ・年間図書貸出冊数…9～13.4冊 ・退学者の割合(入学から標準修業年限内)…3.4～5% ・退学者の割合(入学から1年以内)…1.2～1.6% 1:数値目標において、目標の6割未満の数値がある。</p>

No.	中期計画	平成25年度		
		年度計画	評価規準	評価基準
47 ★	[学生の「こころ」の健康支援] メンタル面での問題を抱える学生が増えていることから、カウンセリング体制の充実、ピア・サポーターの育成と活用、ピア・プレイスの運営などにより、学生の自己理解や自己決定、心理的不適応等の諸問題に対する解決のための働きかけを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 対症療法的な学生支援から予防的な学生支援への転換を図る、包括的な学生支援を行う。 ■ UPI調査による要支援学生の早期発見・早期対応とチーム支援を行う。 ■ 学生の居場所づくり(ピア・プレイス)とピア・サポートを実施する。 ■ 学生相談室長、学生相談担当教員、教学課、カウンセラーで、月1回程度の学生相談担当者会議を定例化し、連携強化を図る。 ■ 学生カウンセラー合同ケース会議を開催し、支援方法の改善につなげる。 ■ ピア・サポート、ピア・プレイス先進大学の調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○UPI調査による要支援学生の早期発見・対応及びチーム支援 ○学生の居場所づくり(ピア・プレイス)とピア・サポートの推進 ○学生相談担当者会議の定例化(毎月1回程度)による連携強化 ○学生カウンセラー合同ケース会議の開催による支援方法の改善 ○ピア・サポート、ピア・プレイス先進大学の調査 	<p>4:規準として掲げた取組をすべて実施するとともに、計画を更に推進する取組に着手した。</p> <p>3:規準として掲げた取組をすべて実施し、学生の「こころ」の健康支援に努めた。</p> <p>2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
48 ◆	[就職支援] 就職ガイダンスや企業説明会の開催に加え、就職支援情報システムの効果的な活用を図るとともに、キャリアアドバイザーの配置や教員による求人開拓・インターンシップ受入れ先の拡充のための企業等訪問などにより、きめ細かな支援を行う。 〔数値目標:就職支援に対する卒業時の満足度…90%(各年度)〕 〔数値目標:進路(就職・進学)決定率…90%(各年度)〕 〔数値目標:就職希望者の就職率…100%(各年度)〕 (何れも各学部・研究科)	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャリアセンターにおいて、学部・学科と連携して、学科別ガイダンスの実施や、キャリアサポーター制度の充実、新就職情報システムを活用した求人情報の配信など、きめ細かなキャリア形成支援・就職支援を行う。 ■ インターンシップ制度を充実させ、学生の積極的な参加を促進する方策を検討する。 ■ 1,2年次生を対象にした全学共通教育科目インターンシップの受講者増を図るとともに、3年次生以上を対象にした専門型インターンシップの実質化を図る。 ■ 「企業と学生との合同就職懇談会」等の開催、就活支援バスの運行などにより、学生の情報収集活動を支援する。 <p>〔数値目標:就職支援に対する卒業時の満足度…90%〕 〔数値目標:進路(就職・進学)決定率…90%〕 〔数値目標:就職希望者の就職率…100%〕 (何れも各学部・研究科)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○就職支援に対する卒業時の満足度…90% ○進路(就職・進学)決定率…90% ○就職希望者の就職率…100% (何れも各学部・研究科) 	<p>4:すべての数値目標において、目標数値を達成した。</p> <p>3:すべての数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・就職支援に対する卒業時の満足度…81～90% ・進路(就職・進学)決定率…81～90% ・就職希望者の就職率…90～99%</p> <p>2:数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値がある。 ・就職支援に対する卒業時の満足度…54%～80% ・進路(就職・進学)決定率…54～80% ・就職希望者の就職率…60～89%</p> <p>1:数値目標において、目標の6割未満の数値がある。</p>
6 大学連携推進に関する取組				
50-1 ★	[大学連携の推進] 大学の教育機能の一層の向上など、産業界や地域社会からの多様な期待に応えていくため、一般社団法人教育ネットワーク中国と連携して、大学連携の推進役を担い、地域における関係事業の推進に積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県内大学等及び一般社団法人教育ネットワーク中国と連携して、サテライトキャンパスひろしまの広島市中心部の立地性を活かし、地域の教育拠点及び学生・社会人の交流拠点として活用し、大学連携を積極的に推進する。 ■ 各キャンパスの特性を活かした大学間連携の推進に積極的に取り組む。 ■ 教育・研究成果物を収集・蓄積・保存し、無償で学内外へ発信する学術情報リポジトリを他大学と共同運用する。(広島県大学共同リポジトリ(HARP)) ■ 教育改革・大学連携担当学長補佐の下に、関係業務を所掌・調整する企画監を置き、大学連携推進体制の構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サテライトキャンパスひろしま及び各キャンパスの特性を活かした大学間連携の実施 ○他大学との学術情報リポジトリの共同運用 ○大学連携推進体制の構築 	<p>4:規準として掲げた取組をすべて実施するとともに、計画を更に推進する取組に着手した。</p> <p>3:規準として掲げた取組をすべて実施し、サテライトキャンパスの活用と大学連携の推進に努めた。</p> <p>2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
50-2 ★	また、連携事業の一環として、地域の研究力の更なる向上を目指して、国際的に極めて高い評価を得ている研究者の招聘や講演会の実施について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 連携事業の一環として、著名な経済学者や経営トップによるマネジメント・セミナーを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○連携事業の一環として、著名な経済学者や経営トップによるマネジメント・セミナーを実施 	<p>4:年度当初の実施計画に基づいてセミナーを開設し、更に追加のセミナーを企画・実施した。</p> <p>3:年度当初の実施計画に基づいてセミナーを実施し、参加者の満足度は良好であった。</p> <p>2:年度当初の実施計画に基づいてセミナーを実施したが、参加者の満足度は高くなかった。</p> <p>1:年度当初の実施計画のうち、一部のセミナーについては実施できなかった。</p>

No.	中期計画	平成25年度		
		年度計画	評価規準	評価基準
II 地域に根ざした高度な研究(研究の質の向上に関する目標)を達成するために取るべき措置				
1 研究水準及び研究の成果等に関する取組				
(1) 重点的研究分野の明確化と研究推進				
53	<p>★ [重点的研究分野の明確化] 重点的に取り組むべき研究分野を明確化し、県内産業の振興や地域課題の解決に資する研究を推進する。</p> <p>【重点的研究分野】 ア 県内産業の活性化に寄与する研究(食品、バイオ、環境、企業経営、情報システム) イ 地域の再生・発展に寄与する研究(地域資源、コミュニティ) ウ 暮らしの安心に寄与する研究(健康、保健、福祉)</p>	<p>■ 重点的に取り組むべき研究分野を明確化し、平成25年度重点研究事業の募集区分に反映する。</p>	<p>○ 重点的に取り組むべき研究分野の明確化 ○ 平成25年度重点研究事業の募集区分への反映</p>	<p>4: 規準に掲げた取組をすべて実施するとともに、県内産業の振興や地域課題の解決に資する顕著な研究成果が得られた。</p> <p>3: 規準に掲げた取組を実施し、県内産業の振興や地域課題の解決に資する研究がそれぞれの研究計画に基づいて行われた。</p> <p>2: 規準に掲げた取組のうち、重点研究の募集区分への反映ができなかった。</p> <p>1: 規準に掲げた取組が、いずれも実施できなかった。</p>
2 研究実施体制等の整備に関する取組				
(2) 外部研究資金の獲得支援				
57	<p>◆ [競争的資金の獲得支援] 科学研究費補助金等の競争的資金について、積極的な応募と獲得を促進するため、応募や獲得に対するインセンティブを強化するとともに、申請書の作成を支援する。また、外部研究資金に関する情報を収集し活用する。</p> <p>〔数値目標: 科学研究費補助金の申請率(応募件数/教員数)…95%以上(平成30年度)〕 〔数値目標: 科学研究費補助金の獲得件数…80件以上(各年度)〕</p>	<p>■ 競争的資金等の外部資金公募情報を収集し、学内向け情報発信を行う。 ■ 科研費申請率95%、採択件数80件を目標として、科研費獲得支援を積極的に行う。 〔数値目標: 科学研究費補助金の申請率(応募件数/教員数)…95%以上〕 〔数値目標: 科学研究費補助金の獲得件数…80件以上〕</p>	<p>○ 科学研究費補助金の申請率(応募件数/教員数)…95%以上 ○ 科学研究費補助金の獲得件数…80件以上</p>	<p>4: 2つの数値目標において、目標数値を達成した。</p> <p>3: 2つの数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・ 科学研究費補助金申請率…85.5~94% ・ 科学研究費補助金獲得件数…72~79件</p> <p>2: 数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値がある。 ・ 科学研究費補助金申請率…57~85.4% ・ 科学研究費補助金獲得件数…48~71件</p> <p>1: 数値目標において、目標の6割未満の数値がある。</p>
III 大学資源の地域への提供と新たな知的資産の創造(地域貢献に関する目標)を達成するために取るべき措置				
1 地域における人材の育成に関する取組				
(1) 生涯を通じた学びの場の提供				
61	<p>★ [地域の人材育成機能の強化] サテライトキャンパスを地域の教育拠点、産学官の連携拠点及び学生・社会人の交流拠点として位置づけ、企業等で活躍する社会人や専門職業人を対象にした、専門的スキルやマネジメント能力の向上に資する講座・セミナーを開設し、地域社会の活性化を担う人材の育成に取り組む。</p>	<p>■ 地域社会の活性化を担う人材の育成、積極的な地域貢献を行う人材の育成のため、連携事業に積極的に学生の参加を促し、意識を醸成する。また、社会人や専門職業人を対象とした意識啓発やスキルアップ、能力向上に資する講座やセミナーの開催を検討する。 ■ 地域社会の活性化を担う人材の育成のため、中堅・中小企業マネジメントと起業家養成に重点を置いた講座をサテライトキャンパスで開催するとともに、MBAの設置のための検討を行う。 ■ 3年間受託実施した、観光マネジメント人材育成セミナーの実績を踏まえ、「経営学特別講義Ⅲ」(経営学からみた観光ビジネスの理論と実際)を実施する。翌年度以降は学部での取組を検討する。</p>	<p>○ 連携事業への学生の参加促進及び意識の醸成 ○ 社会人や専門職業人対象の能力向上に資する講座やセミナーの開催 ○ 中堅・中小企業マネジメントと起業家養成に資する講座の開設 ○ MBAの設置に向けた検討 ○ 「経営学特別講義Ⅲ」(経営学からみた観光ビジネスの理論と実際)の開講。翌年度計画に係る経営情報学部での検討。</p>	<p>4: 規準に掲げた取組をすべて実施するとともに、MBA設置に向けた具体的な方針の決定など、計画を更に推進する取組が顕著であった。</p> <p>3: 規準に掲げた取組をすべて実施し、地域の人材育成機能の強化に努めた。</p> <p>2: 規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1: 規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
65-2	<p>◆ また、各キャンパスにおいて、地域における生涯学習や社会人の学び直しのための公開講座等を開催する。 〔数値目標: 全ての公開講座受講者の満足度…80%(平成30年度)〕</p>	<p>■ 地域のニーズを踏まえた講座を開講するとともに、資格取得支援講座、専門性の高い講座、学び直し講座等、成熟社会における高度な学習ニーズに対応した公開講座を開講する。 〔数値目標: 全ての公開講座受講者の満足度(「とても満足」と「満足」の%)…80%〕</p>	<p>○ すべての公開講座受講者の満足度(「とても満足」と「満足」を合わせた割合)が80%以上</p>	<p>4: 数値目標において、目標数値を達成した。</p> <p>3: 数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・ 満足度…72%~80%</p> <p>2: 数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値であった。 ・ 満足度…48%~71%</p> <p>1: 数値目標において、目標の6割未満の数値であった。</p>

No.	中期計画	平成25年度		
		年度計画	評価規準	評価基準
2 地域との連携に関する取組				
(1)地域貢献・連携(COC)機能の強化				
68-1	★ [地域連携・交流機能の強化] 大学と地域が持つ資源やニーズを結び、互いに活かすための産学官連携や地域連携(教育・交流)を総合的に推進する拠点として、地域連携センター、宮島学センター、フィールド科学教育研究センター、及びサテライトキャンパスの機能強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自治体との意見交換、情報共有体制を強化する。地域社会や産業界との結びつきを強化するため、企業等団体や地域の協議会等との連携を推進する。 ■ 平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に取り組む。 ■ サテライトキャンパスひろしまを設置・運営し、地域の教育・研究拠点として活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業等団体や地域の協議会等との連携の推進 ○平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」計画の策定・応募 ○「サテライトキャンパスひろしま」の設置・運営、及び地域の教育・研究拠点としての活用 	<p>4:規準に掲げた取組をすべて実施するとともに、計画を更に推進する取組が顕著であった。</p> <p>3:規準に掲げた取組をすべて実施し、地域連携・交流機能の強化に貢献した。</p> <p>2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
68-2	★ また、美術館や博物館、金融機関、経済団体と連携し、双方の資源を有効に活用し、地域の活性化に貢献する。(関連項目50～52, 56)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 美術館や図書館、協定金融機関等と連携し、公開講座を始めとする各種事業を展開し、地域活性化に貢献する。 ■ キャンパスメンバーズ制度の利用促進を図るとともに、新規加入に係る協議・手続を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館や図書館、協定金融機関等との各種連携事業の展開 ○キャンパスメンバーズ制度の利用促進 ○キャンパスメンバーズ制度への新規加入に向けた取組 	<p>4:規準に掲げた取組をすべて実施するとともに、新規の連携公開講座の開設など、計画を更に推進する取組が顕著であった。</p> <p>3:規準に掲げた取組をすべて実施し、地域連携・交流機能の強化に貢献した。</p> <p>2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
IV 大学運営の効率化(法人経営に関する目標)を達成するために取るべき措置				
1 業務運営の改善及び効率化に関する取組				
(1)組織運営の改善				
73-1	★ [組織運営に係る留意事項と体制の強化] 理事長・学長のリーダーシップの下、法人や大学の目的(学部・学科等の目的を含む。)を大学の構成員に周知し、その共通理解に努めるとともに、大学内部における情報の共有化を進め、透明性のある大学運営に努める。(関係項目92, 95)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理事長・学長のリーダーシップの下、目標・計画委員会などを通じ、全教職員に対し、中期目標・中期計画、25年度計画及び重点事業の周知・徹底を図る。 ■ 部局長等連絡会議での情報提供や大学ホームページ内に教職員専用コーナーを設け、情報の共有化を図る。 ■ 新任・昇任教員研修での理事長・学長講話などを通じて、共通理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標・計画委員会などを通じた中期目標・中期計画、25年度計画及び重点事業などの学内周知 ○部局長等連絡会議や教職員専用イントラネットによる学内情報の共有化 ○新任・昇任教員研修での理事長・学長講話などによる共通理解の促進 	<p>4:規準に掲げた取組をすべて実施するとともに、計画を更に推進する新たな取組が顕著であった。</p> <p>3:規準に掲げた取組をすべて実施し、大学構成員との情報の共有化に努めた。</p> <p>2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
73-2	★ また、社会経済情勢の変化に迅速かつ的確に対応するため、理事長・学長のトップマネジメントを支える経営企画機能及び教育企画機能を強化するとともに、全ての教職員が一体となって、大学の経営・運営に当たる体制の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本学が重点的に取り組むべき事業や課題に応じて、理事の担当分掌業務を見直し、学長補佐を適切に任命し、経営企画機能と教育企画機能を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理事の担当分掌業務の見直し ○学長補佐の任命による経営企画及び教育企画機能の強化 	<p>4:規準に掲げた取組をすべて実施するとともに、新たな学長補佐の配置計画を策定するなど、計画を更に推進する新たな取組が顕著であった。</p> <p>3:規準に掲げた取組をすべて実施し、経営企画・教育企画機能の強化に努めた。</p> <p>2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
(2)教職員の教育力等の向上				
78	★ [教員業績評価制度の適切な運用] 教員の教育・研究・地域貢献・大学運営への貢献を適正に評価し、その結果を人事、給与、研究費等に反映させる教員業績評価制度を着実に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他大学における導入状況を検証し、学内で課題等を解決しながら、人事・給与への反映のあり方について検討する。 ■ 人事等への反映の前提となる教員業績評価制度の客観性、公平・公正性等を担保するため、教員業績評価委員会において引き続き検討を行う。 ■ 教員業績評価制度の効率的な実施及び教育情報の速やかな公表を目的として、教員業績評価・教員活動情報公開システムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人事・給与への反映のあり方に関する検討 ○教員業績評価制度の客観性、公平・公正性等の担保に資する検討 ○教員業績評価・教員活動情報公開システムの構築 	<p>4:規準に掲げた取組をすべて実施するとともに、教員業績評価委員会において教員業績評価結果の給与への反映方針を決定するなど、計画を更に推進する取組が顕著であった。</p> <p>3:規準に掲げた取組をすべて実施し、教員業績評価制度のあり方と課題などに関する理解を深めた。</p> <p>2:規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1:規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>

No.	中期計画	平成25年度		
		年度計画	評価規準	評価基準
(4)戦略的広報の推進				
82 ★	<p>[戦略的広報の展開]</p> <p>★ 本学の知名度向上及び社会に対する説明責任を果たすため、広報の基本方針を定め、戦略的広報を展開する。</p>	<p>■ 戦略的に広報を実施するため、広報室を設置する。</p> <p>■ ステークホルダー別に広報の時期及び手段を明確にする年間広報計画を策定し、戦略的な広報に努める。</p>	<p>○ 広報室の設置</p> <p>○ 広報に係る年間計画の策定</p> <p>○ 広報の戦略的な実施</p>	<p>4: 規準として掲げた取組をすべて実施するとともに、年間広報計画を上回る広報の実施など、計画を更に推進する取組が顕著であった。</p> <p>3: 規準として掲げた取組をすべて実施し、戦略的な広報活動の展開に努めた。</p> <p>2: 規準に掲げた取組について、その一部を実施できなかった。</p> <p>1: 規準に掲げた取組について、その大部分を実施できなかった。</p>
2 財務内容の改善に関する取組				
(1)自己収入の改善				
84◆	<p>[外部資金の獲得]</p> <p>法人運営の安定性・自律性を高めるため、企業等との共同・受託研究や科学研究費補助金等の競争的資金の積極的な獲得により、外部資金の恒常的な獲得を図る。 [数値目標:外部資金の年間獲得総額…2億円以上(各年度)]</p>	<p>■ 企業等との共同研究、受託研究を推進するほか、各種の競争的資金の獲得に向けて情報収集と申請支援を行い、外部資金の着実な獲得に努める。 [数値目標:外部資金の年間獲得総額…2億円以上]</p>	<p>○ 外部資金の年間獲得総額…2億円以上</p>	<p>4: 数値目標において、目標数値を達成した。</p> <p>3: 数値目標において、目標の9割以上の数値を達成した。 ・年間獲得総額…1.8億～1.9億円</p> <p>2: 数値目標において、目標の6割以上、9割未満の数値であった。 ・年間獲得総額…1.2億～1.7億円</p> <p>1: 数値目標において、目標の6割未満の獲得総額であった。</p>